模型情報12月号　昭和60年12月1日発行（毎月1回1日発行）　第6巻第12号通巻76号　昭和59年10月26日第3種郵便物認可
Monthly BANDAI Making Journal
模型情報
12
1985
100yen
表紙イラストレーション
石橋謙一
Ζガンダム放映延長決定！
アドバンスト・バルキリー
インタビュー河森正治氏
新MS設定資料
1/30レイズナー
フルスクラッチ
速水仁司
成田亨
スペシャルデザインワーク

カット・北崎 拓美

MJ FORUM

オリジナルMSでファミコンカセットマクロスが当たる。

君のオリジナルモビルスーツを設計してファミリーコンピューターのカセットをもらおう。

ポピー事業部から発売されている「DXゼータガンダム」「DXガンダムマークII」「モビルゼット800」の商品の中に、"OM応募券"というものが入っているんだけど、このOM応募券を貼って、自分の考えたオリジナルモビルスーツのイラストを応募すると、バンダイより発売中のファミリーコンピューターのカセット（マクロス）が当たるよ。

期間は、60年12月～61年3月末日（消印有効）。送り先 〒111 東京都台東区駒形1の4の14 ㈱バンダイポピー事業部・ガンダムモビルスーツ係。

応募するためには、まず、ポピーの商品を買わないといけないんだけど、それだけに応募すれば、当選する確立も高いような気がするね。

抽選で当たる運のよい人は毎月200名様。

MJ読者なら、MSのデザインなんてお手のものでしょうから、さっそく応募してみたらいかがでしょうか。

宇宙一ゲーム超人コンテストに挑戦

先月号でもお知らせしましたが、バンダイからファミコンのカセットが発売されたことを記念して「宇宙一ゲーム超人コンテスト」が開催されている。

まず、日本を8地区に分けて、各地区ごとにベスト50位までを決定する。50位までに入賞した人には各自のクリアラウンド数と順位をキン肉マンが証明する"シルバーカード"をプレゼントされる。そして各地区のチャンピオン（全国合計8名）の賞品は、特製"ゴールデンタッグカートリッジ"このカートリッジにはチャンピオン本人が希望するキャラクターをゲームに加えることができる。まさに世界でただ一つのカートリッジだ。詳しくは店頭でお聞き下さい。

Zガンダム放映延長 新展開の物語に期待。

3月より放映が開始され、いよいよ盛り上がってきた「機動戦士Zガンダム」だが、何と来年3月以降の放映延長が決定されたので報告したい。

今まで、この時間帯は一年間というのがパターンだったけれど、そのパターンをガンダムパワーが破った。

――「Zガンダム」は、61年2月まで50本のTV作品放映を予定しておりますが、現在すでに次の段階の「ガンダム」を求める要請がファンから起っております。同時に、各関係筋からも「Zガンダム」にあっては、未だに、その世界の真の姿を現していないとの御批判もいただきます。「ガンダム」の世界は、「ゼータ・ガンダム」に進んで更に余りある広大さをもっていることを我々に教えてくれたのです。

更に、「ガンダム」世界を認識するために、もっと別の切り口の物語を待望されているのです。それは、ガンダム世界が現実に即した広大な世界を内包している証明でありましょう。

それら現実に存在する大きな力に応え、私たちは更なる「ガンダム」世界を求めて、本「Zガンダム」の継続を決意致しました。

第一作「機動戦士ガンダム」より7年余り、長足の進歩を遂げた科学と人間とを見つめながら、少年少女たちの一歩進んだ宇宙観を投入して、より豊かで冒険心に富んだ番組に仕上げたいと考えます。――（企画書より一部抜粋）

詳しい事は、12月発行のアニメ誌等に掲載されると思いますのでご覧下さい。

51話以降がどんな内容になるかは、まだ明らかではないが、主人公が交代する等、大きく変化する事は確かな様だ。注目しよう。

スパイラルゾーンのイメージアルバム発売

先月号でもお知らせしたスパイラルゾーンのイメージアルバムの発売日が決定した。

発売は12月21日（ワーナーパイオニア）だが、今予約をすると、特典として高田明美さんが描き下したポスターがもらえる。

このイラスト、今までの高田タッチとは少々イメージがちがう新境地を開いたという作品に仕上がっているから、高田ファンとしては見逃せないよ。

絶好調ガチャポンになつろぼ登場

次から次へと新製品が登場するガチャポンワールドに、またまた新製品が登場だ。

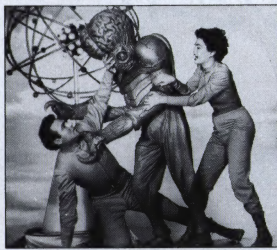
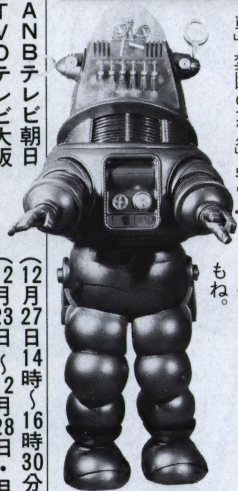
ご覧の通り、昔懐かしいロボットヒーローが、かわいくディフォルメされている。その名も「ディフォルメなつかしロボシリーズ」。

パート1として、マジンガーZ、ゲッタードラゴン、勇者ライディーン、新鉄人28号の4点がラインナップされている。

パート2が何になるかは、まだ未定だけれど、この際だからポピー特機事業部の方へリクエストをしてしまおう。

この他にも、ディフォルメシリーズに、レイズナーのSPTも加わりそうだ。こう矢つぎ早にシリーズがふえるとコレクションするのも大変ね。

機動戦士ガンダム年末TV放映……●ANBテレビ朝日（12月27日14時～16時30分／ガンダムⅢ）●NBN名古屋テレビ（12月26日・15時～18時／ガンダムⅠ・Ⅱ・Ⅲ）●TVOテレビ大阪（12月23日～12月28日・月～土の6日間14時～15時30分／ガンダムⅢ）

ロビーや、半魚人に劇場で会えるゾ！

今や押しも押されぬ"S(P)FX"そして"ホラー"ブーム。そんなブームのおかげでまたまたとんでもない企画が生まれてしまった。ナント50年代SFホラー作品の連続上映。作品は「大アマゾンの半魚人」「宇宙水爆戦」「禁断の惑星」「宇宙戦争」「蝿男の恐怖」の5本。MJ読者でこれらの作品を劇場で見たことのある人はまずいないんじゃないかな。一応来年早々に東京渋谷パルコでの上映が決定しているが、ヒットすれば全国公開なんてことになるかもね。

菊地作品、遂に映画化！

あっという間にベストセラー作家になってしまった超売れっ子・菊地秀行の人気シリーズ"D"のアニメ化が進行中。ストーリーは、シリーズ第一作「吸血鬼ハンターD」（朝日ソノラマ・420円）を元に平野靖之が脚色。気になるキャラ設定には原作のさし絵を担当した天野喜孝氏も参加するといった力の入れようで、菊地氏に「イメージは違ったが、完全にシャッポを脱いだ」と言わしめた氏の絵の雰囲気が、どれだけアニメで表現できるかに御注目というところ。ビデオの発売と同時に12月21日から劇場公開も決定、同時上映は「レダ」。

特撮映像の原点作品「宇宙Gメン」ビデオ化!!

特撮映像のビデオが人気の中で、ちょっと古い作品だが、むしろ特撮の基礎ともいえる作品を紹介しよう。

昭和38年に日本テレビ系列で放映された、「宇宙Gメン」がそれだ。宇宙平和というスケールの大きな目標に向う、Gメンの活躍が痛快なSF作品である。

この度、これがビデオで発売されることになった。3話づつ（1話25分）をまとめて1巻として4巻発売。（VCA発売、各巻9800円）。今なら、珍らしい「まんが王」の別冊付録の復刻版がついている。

"SFX"見て良し、読んで良し

"SFX"ムービーの話題が続いたところでついでに書籍も御紹介。まずは、"SFX"という言葉はこの人無しでは定着しなかった!? 中子真治の「SFX映画の世界―完全版4」（講談社・580円）。英語をそのままカタカナに置き変えただけの表記など、解りにくい所もあるが、現地調達の豊富なフォトは必見。ホラーファンの方には「血しぶきホラーの世界」（芳賀書店・2千円）を。H・G・ルイスと、ロメロの作品を中心としたスプラッター映画の大特集で、各監督の詳細なフィルモグラフィーも収録。

本家本元登場、ゾンビ映画

ホラーファンの間では既に神格化されつつある「ナイト オブ ザ リヴィング デッド」とその続編「ゾンビ」。その第3弾「デイ オブ ザ デッド」がいよいよクリスマスに全米で公開される。第1作から実に17年目にして3作目というのも、前2作の人気の程が知れるだろう。勿論、監督は前2作と同じジョージ・A・ロメロ、特殊メイクも当然トム・サビーニ。今回は、顔面がえぐり取られた脳ミソだけのゾンビや、内臓の露出したゾンビなどそのグロテスク度も増々エスカレート。日本でも公開されるかな？♡

GEORGE A. ROMERO'S DAY OF THE DEAD

緊急発表!

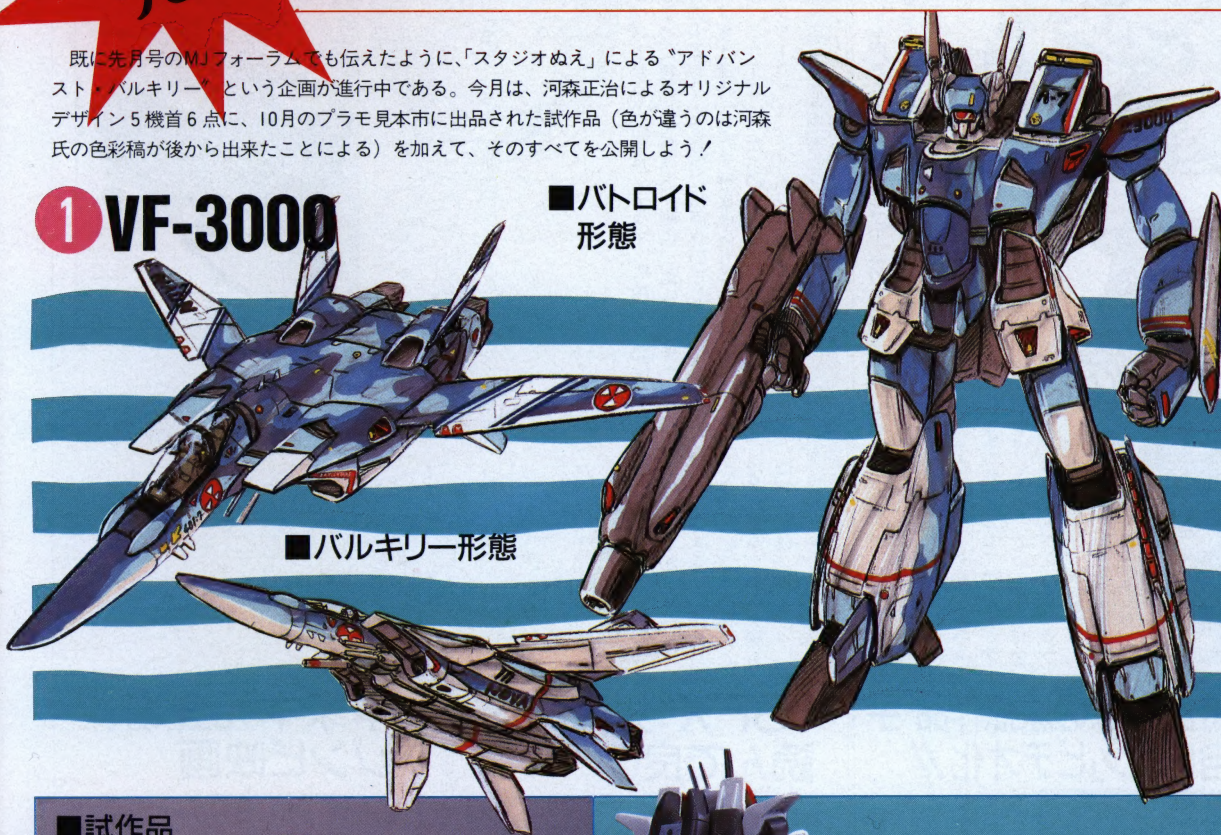
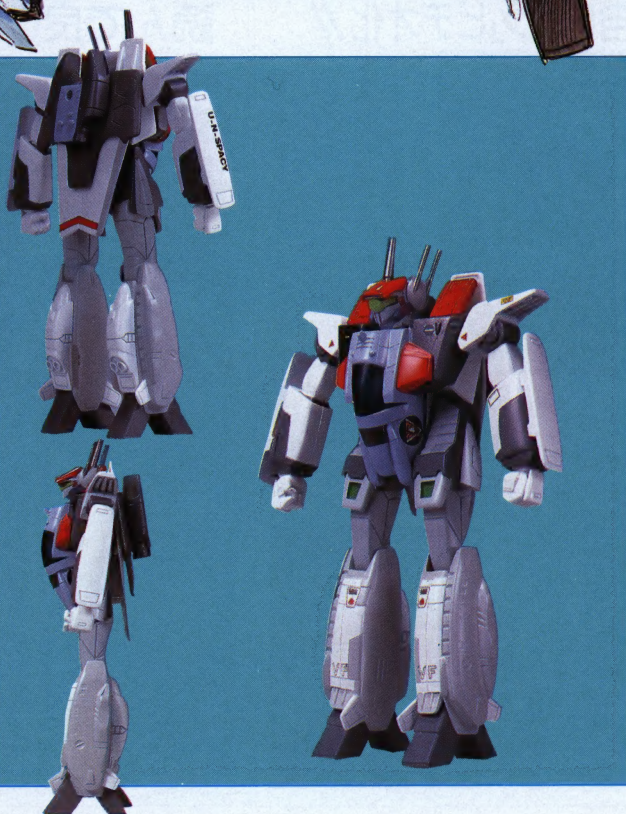
河森正治(スタジオ・ぬえ)デザイン

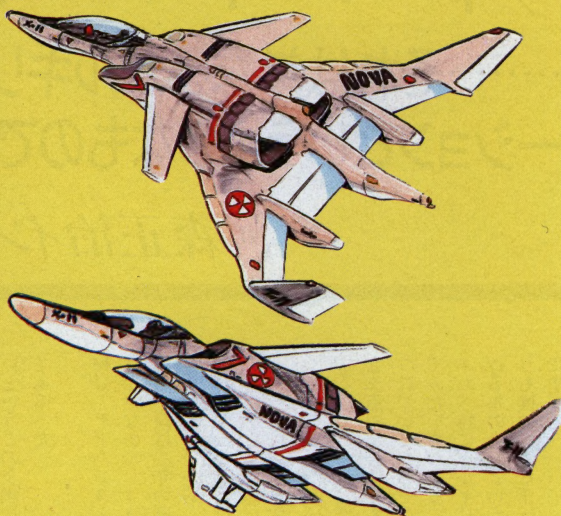
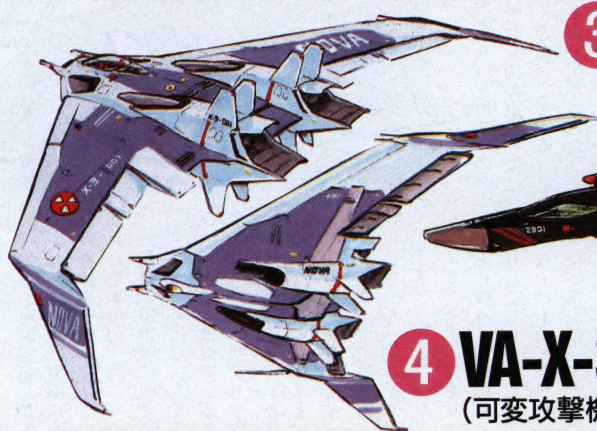
アドバンスト・バルキリー

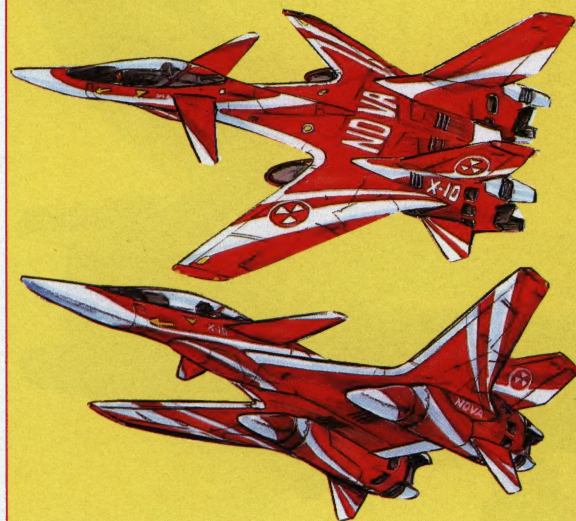
既に先月号のMJフォーラムでも伝えたように、「スタジオぬえ」による〝アドバンスト・バルキリー〟という企画が進行中である。今月は、河森正治によるオリジナルデザイン5機首6点に、10月のプラモ見本市に出品された試作品（色が違うのは河森氏の色彩稿が後から出来たことによる）を加えて、そのすべてを公開しよう！

① VF-3000

■バトロイド形態

■バルキリー形態

■試作品

■試作品

② VF-X-10

③ V-BR-2
(超音速偵察爆撃機)

④ VA-X-3
(可変攻撃機)

⑤ VF-X-11(前進翼機)

■試作品

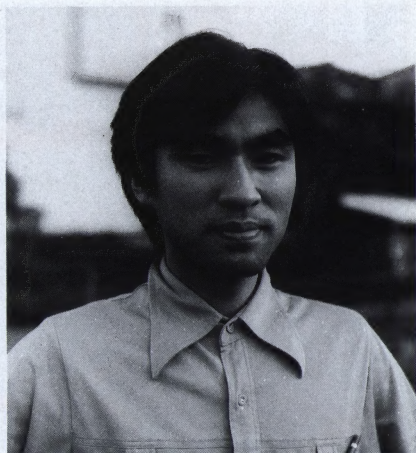
アドバンスト・バルキリー

………それは単なるバルキリーバリエーションというようなものではない！

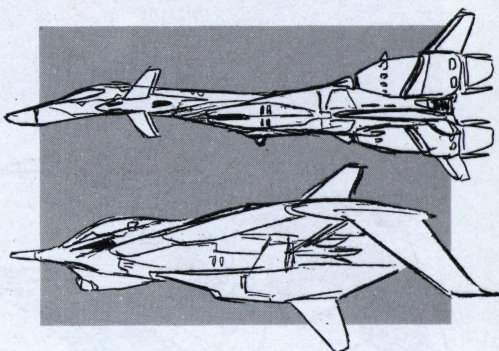
河森正治インタビュー

スタジオぬえの一員でありバルキリーのデザイナーとして知られている河森正治、彼はまた劇場版「マクロス」の監督でもある。そんな彼から今、一つの企画が提示された。

「アドバンスト・バルキリー」

「マクロス」のパート2などでは決してないというこの企画について河森氏自身に語ってもらった。

MJ　アドバンスト・バルキリーとはどういう企画なのでしょうか。

河森　僕は去年の劇場版「マクロス」の監督をしたことで一応「マクロス」という作品でやりたかったことは大体やってしまったんです。だから「アドバンスト・バルキリー」は「マクロス」の続編などではありません。

「マクロス」という作品は「歌の使い方」、「キャラクターの使い方」、「メカニック」という三点の集合体です。当然この三点の一つ一つについてなら、「マクロス」から離れてやってみたい事があるんです。今回はそのうちのメカ、特にバルキリーに関するものを掘り下げる為の企画という訳です。変形とかなによりも僕の好きな飛行機にこだわってみたいんです。

MJ　今回掲載した5点のデザインは実際にある機体をモデルにしているんですか。

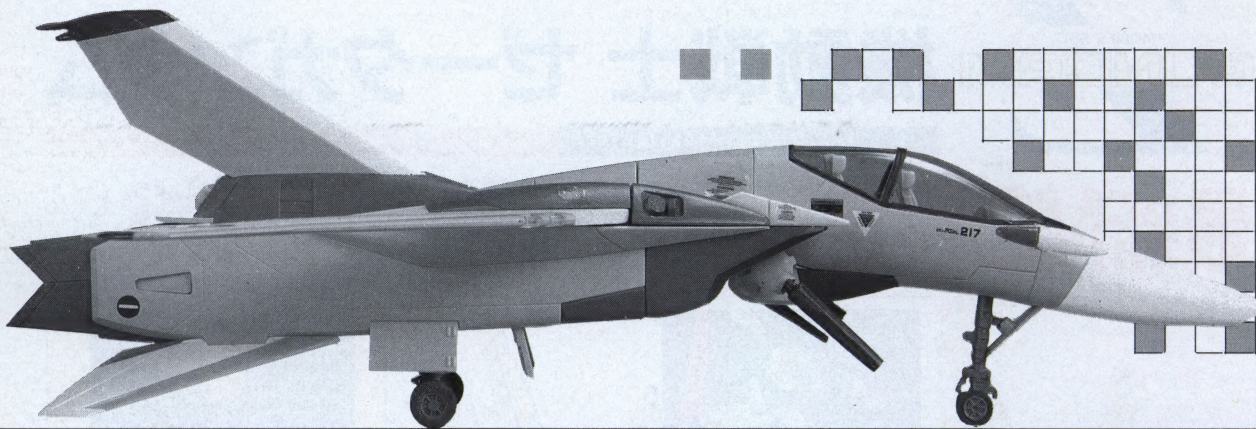
河森　現用機に似せているつもりはないんです。結果的には似ているとしても、現在の航空力学やその理論を押さえてそれがこれからどうなっていくか？という僕なりのアプローチなんです。誰もF—14に似せてF—15をデザインしたわけではないし、ミグ25をデザインしたのでもないはずです。—ソ連はわかりませんけど(笑)—。

VF—1バルキリーもデザインしているうちに段々F—14に似てきてしまったので悪乗りしてしまったんです。元々F—14からではなくバトロイドから始めたデザインなんですよ、あれは。また今回掲載したデザインはすべてラフデザインです。いうなればプロダクションスケッチです。試作品は空力試験用模型とでもいうべきものですか(笑)。これからデザインされるに従ってガウォーク程度への可変も可能になります。

MJ　結果的にどういう形への発展を狙っているんですか？

河森　現在予測されている10年後ぐらいのテクノロジーを利用したデザインを狙っています。ただその過程で現在考えられている以外の、独自のアイデアが生まれればそれも面白いと思います。

MJ　ところで「アドバンスト・バルキリー」とはどんな物語になるんでしょうか。

河森　時代は2000年を少し過ぎたぐらい、舞台はアメリカになるでしょう。主に可変戦闘機を実験してテストしている〈NOVA〉という組織のテスト・パイロット達を主人公とした物です。余り戦争物にはしたくなくて、戦場からは遠く離れた〈NOVA〉でのテスト・パイロットの心情を描く物のほうがいい

ですね。戦争物ならやはりフィルムでないと(笑)。小説版の「ライト・スタッフ」みたいな気分も描いてみたいんですが真似するのは厭なので、詳しい部分はまだ未定なんです。ただ、見る側もそういったマクロスとは違った部分で楽しめると思います。キャラクターも「自分はこの機に乗りたいからここにいるんだ」みたいな連中にして。ただリアルといったところで、変形するということは嘘なんですから、そういうある意味で「夢」の部分も当然あるでしょうね。毎度おなじみのスーパーパーツも登場するでしょう(笑)。

MJ　ところでここで気になるのはアニメ化されるかどうかということなんですが。

河森　それは今のところ有り得ません。というのも今回のデザインはいずれもアニメメカの制約を離れたことで始めてできたものなんです。最近でははっきりしてないようですが、僕はアニメ用のメカデザインとそうでないデザインは確実に違うし、そうでなくてはいけないと思うんです。それはどちらのデザインが優れているということではありません。アニメは2次元の絵ですからキャラクター性を重視してデフォルメしてやる必要があります し。だからバトロイド形態でのキャラクター性ではVF―3000よりVF―1の方が上だと思います。

MJ　では今回のデザインはアニメよりも3D化を意識されているんですね？

河森　そうです。とにかくプラモデルにしても、何にしても日本ではオリジナルの飛行機って作ってくれないでしょう。実機そのままか、若しくはアニメメカだけで。僕は飛行機が好きで、実機よりむしろオリジナルの変わった機体が好きなんです。で、そういうののプラモが欲しい(笑)。自分で欲しいからデザインしてしまった。僕の他にもそういうのが欲しい人がきっといるでしょうしね。そして3Dであるから、見る人が見ればその機体が飛ぶか飛ばないか解ってしまうんです。だから最低限のポイントは押さえたデザインが必要な訳です。ただ全くキャラクター性を無視するわけにもいかないんでその味付けもやっています。とにかく早く実物を手にとりたい！

MJ　河森さんが飛行機、ひいてはバルキリーにこだわるのは、それらのどこにひかれたからでしょうか？

河森　地上と空中を無段階につなぐシステムであるということが飛行機への興味の中心です。実際ガウォークまでだったら実現可能だと思いますし、現在のテクノロジーの延長線上にあって尚且つキャラクター性を持たせられたということでバルキリーには愛着があります。最初はスーパーバルキリーをデザインしたことで決着はつけたつもりだったんですが、最近になってそれらのオモチャを見ているうちに色々と不満が生まれまして、「アドバンスト…」ではそういった不満を解消していくつもりです。またバルキリーというのは、どの大戦映画にもゼロ戦やムスタングがでてくるのと同じように、僕の未来史の中では実際に存在している機体なんです。だから「マクロス」のVF―1もそのバルキリーシリーズの中の一機をデフォルメされた形で使用したもの、と解釈してください。

MJ　「アドバンスト・バルキリー」とは河森さんにとってどんな意味をもったものとなるんでしょうか？

河森　自分の中でバルキリーという機体に決着をつける目的はあります。ただそれが他者にインパクトを与えることは難しいと思います。ただここで完成度を高めて決着をつけないといつまでたっても次の段階にいけない気がするんです。近未来戦闘機のデザインとしては僕の一応の終着点をこの企画では目指しています。

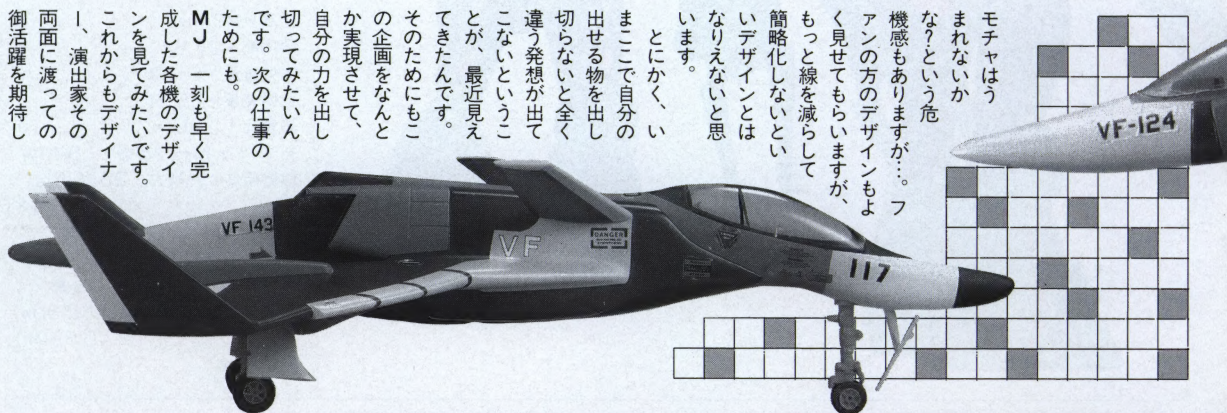
MJ　そして次のデザインを始める？

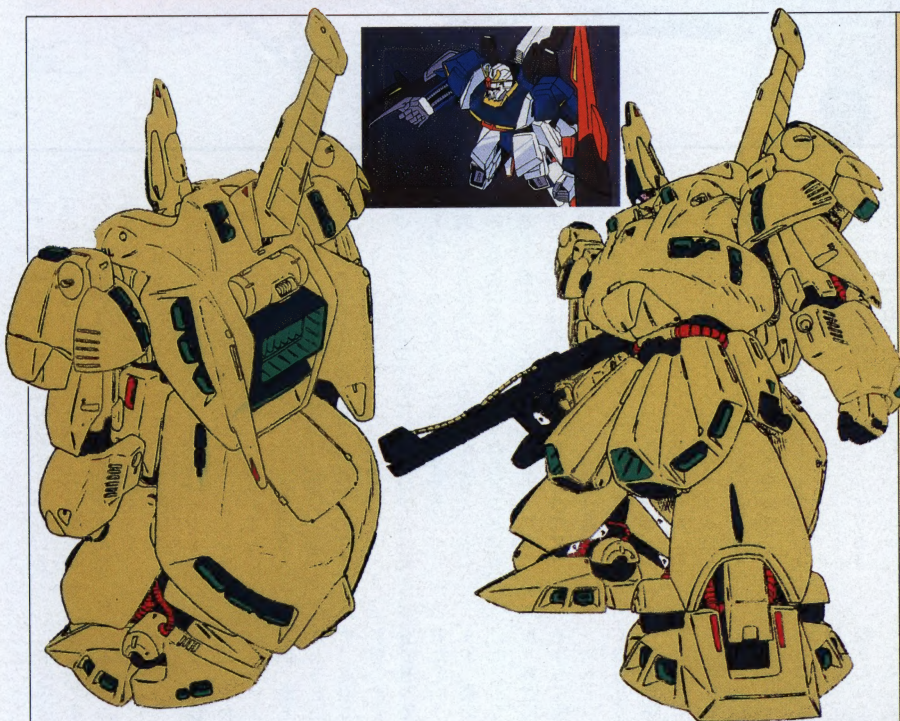
河森　いや、次は出来れば別の人のデザインを演出家として動かしてみたいですね。ただいつまでも変形にこだわっていると新しいオモチャはうまれないかな？という危機感もありますが…。ファンの方のデザインもよく見せてもらいますが、もっと線を減らして簡略化しないといいデザインとはなりえないと思います。

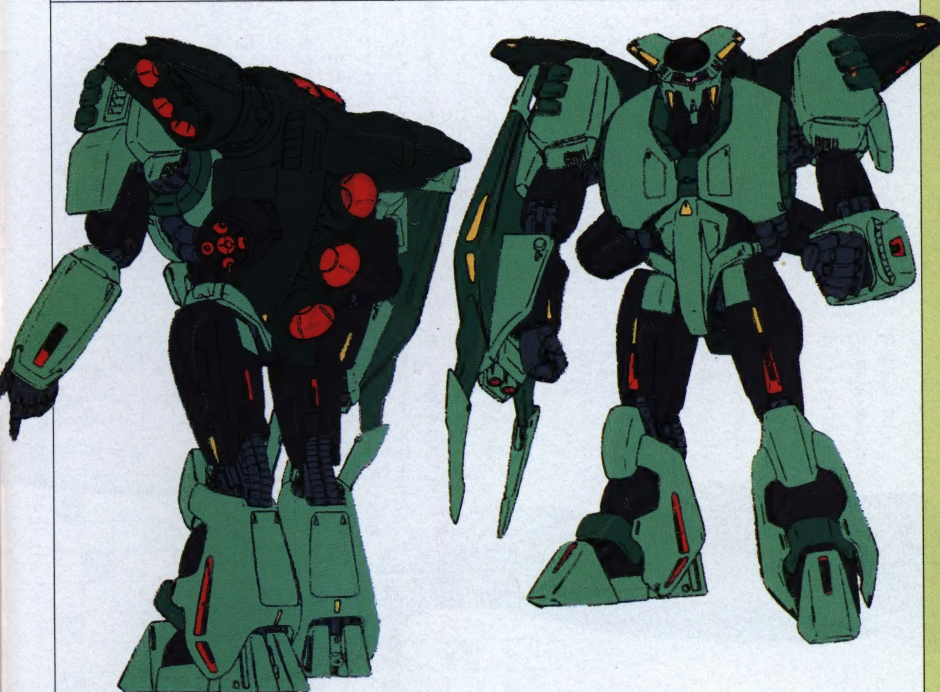
とにかく、いまここで自分の出せる物を出し切らないと全く違う発想が出てこないということが、最近見えてきたんです。そのためにもこの企画をなんとか実現させて、自分の力を出し切ってみたいんです。次の仕事のためにも。

MJ　一刻も早く完成した各機のデザインを見てみたいです。これからもデザイナー、演出家その両面に渡っての御活躍を期待しています。

機動戦士 ゼータガンダム

TECHNICAL MANUAL　テクニカル・マニュアル

最新MS設定集

「Zガンダム」に登場する最新モビルスーツを2体、紹介しよう。どちらもシロッコ側のMSで、ジ・オにはシロッコ、ボリノーク・サマーンにはサラが搭乗するようだ。

PMX-003 ジ・オ THE-O

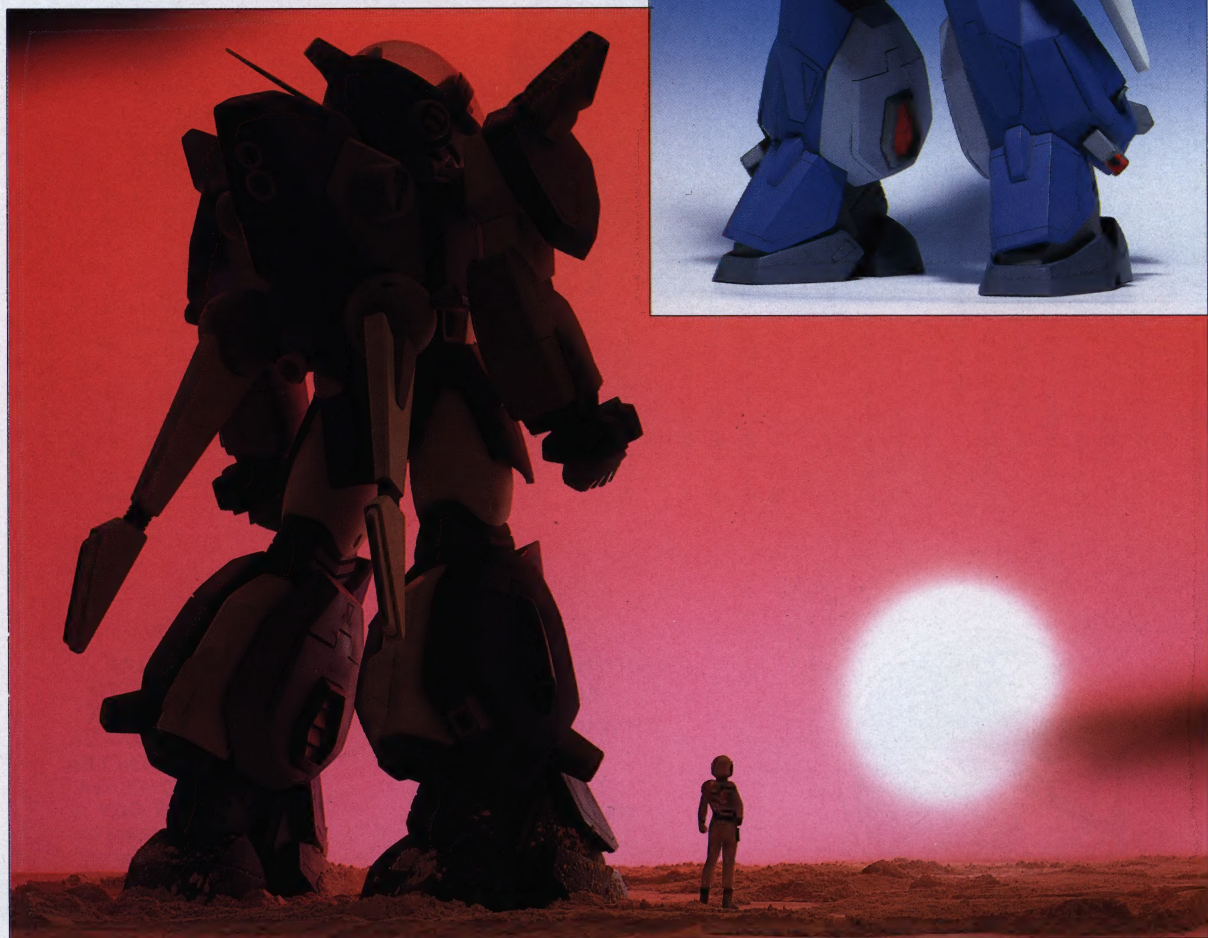
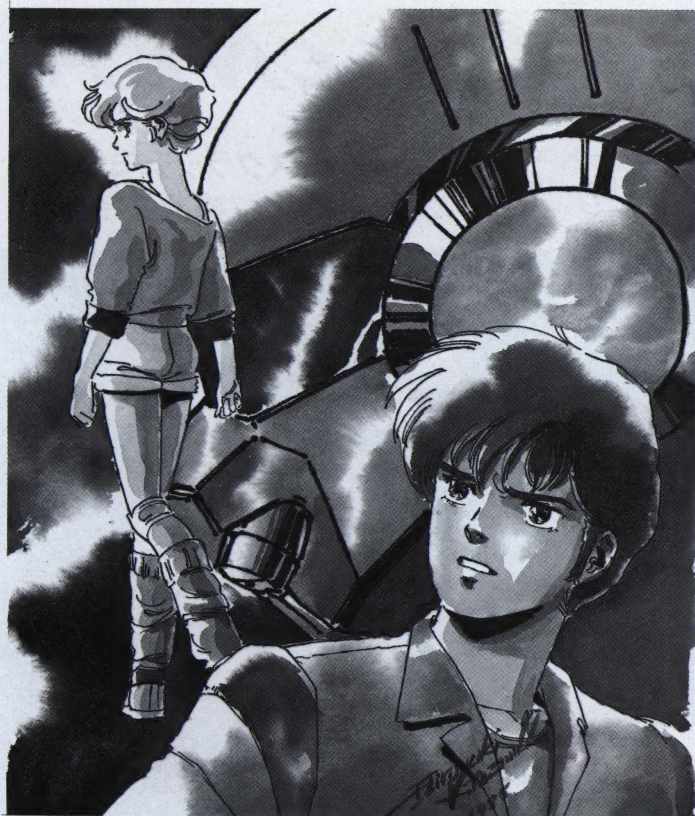
全高・19.9m
頭頂高・19.9m
本体重量・31.6t
全備重量・56.2t
質量比・1.46
パワージェネレータ出力・1,720KW
移動用ロケット推力・20,040kg×3
姿勢制御用バーニア・18基
センサー有効半径・11,040m
装甲材質・ガンダリウム合金
武装・ビームサーベル(出力0.42KW)
&トマホーク(出力0.53KW)
・炸裂弾ランチャー
乗員・1名

PMX-002 ボリノーク・サマーン BOLINOAK-SAMMAHN

全高・28.4m
頭頂高・24.8m
本体重量・57.3t
全備重量・86.3t
質量比・1.36
パワージェネレータ出力・1,840KW
移動用ロケット推力・38,200kg
・16,200kg×6
姿勢制御用バーニア・50基
センサー有効半径・11,300m
装甲材質・ガンダリウム合金
武装・ビームライフル(出力2.6Mw)
・ビームソード(出力0.39Mw)
乗員・1名

1/30スケール

SPT.レイズナー LAYZNER

11月号で頭部のみを見せた速水仁司製作による1／30スケール、レイズナーが完成した。全高は32cmもあるビッグ・モデルだ。(詳しい製作記事は、〝Bクラブ〟3号を見てほしい)

フルスクラッチモデル
製作/速水仁司

スパイラルゾーン
SPIRAL ZONE

Scene 8
壁

どこからともなく、薄墨のような闇がたちこめて、〝ゾーン〟に闇が訪れる。冴え冴えとした月光も、またたく星明りもなく、陽炎のようにゆらゆらと揺れ動く闇が支配する〝ゾーン〟の夜。

闇は、ほとんど物質に等しく、大気のそこここによどみをつくる。

それらは、ひどく不安定だ。濃密な闇から希薄な闇へ、流れとなって渦を巻き、かと思えば、濃密なものが濃密なままで拡大を続け突然、ふっと希薄になったりもする。

闇の動きにはなんの法則性もない。

時として、大地は重苦しい吐息のように、茫とした蒼白い燐光を吐き出す。と、そのわずかな光を食らいつくそうとするかのようにそこに闇が群がり、もつれあう。

その様は、〝ゾーン〟に犯され、病み衰えたガイアが吐き出す血膿と、その血膿にたかり、のたくるウジ虫を思わせた。

SFG第17分遣隊〝ファイヤーボール〟のメンバーが〝ゾーン〟でむかえる4度目の夜だった。

トレーラーベースのキャタピラが刻んだわだちの中で、地面がふつふつとわき返り、腸壁突起に似た細かな触手状の土くれがぞよぞよと頭をもたげて〝ゾーン〟に入りこんだ異物の痕跡をかき消そうと、しきりにうごめいている。

H川ぞいに旧148号線を北上する二輌のトレーラーベースは、ねっとりとまとわりつく闇のしずくを引きずりながら、じりじりとごくごくゆっくりした速度で進んでいく。

作戦の第一目標である日本海海岸線まで、あと少し――半日たらずの距離だった。

出発前、ジェレミーは彼らの移動基地を、〝パメラ〟と〝マリアン〟のニックネームで呼ぶことを提案し、それに対して越智(おち)は〝エンタープライズ〟と〝ディスカバリー〟の方がいい、と主張した。

二人は共に自説をゆずらなかった。論争が

Special Force Group

《STAFF》

WRITTEN AND DIRECTED BY
KAZUNORI ITO

CHARACTER DESIGNED BY
AKEMI TAKADA

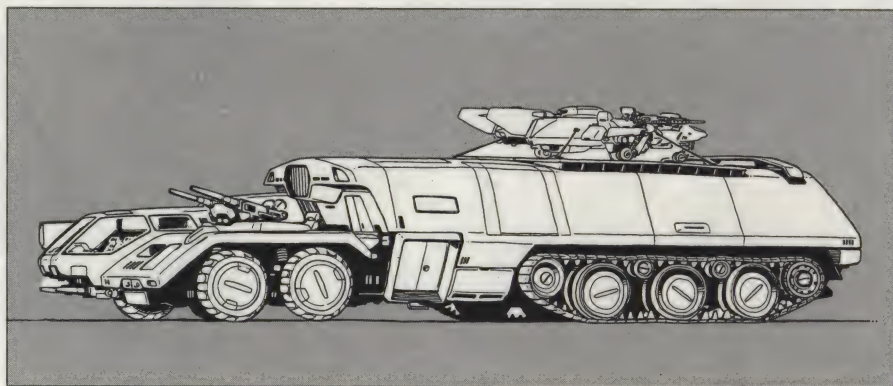
ILLUSTRATION BY
HIROYUKI KITAZUME

MECHANICS DESIGNED BY
RYO SAKUMA
JUN KATO
KAZUHISA KONDO
HIROYUKI KATO

《CAST》

RIN KAZUMI
GIG STRATTEN
YUJI IZUBUCHI
TAKESHI WAKANA
NORMAN SYNCLEA
MARDOC HIRATA
JEREMY GRY
AKIO KATO
YURA IZUBUCHI
MARTHA GRAVATTE
SHUICHI OCHI

子供のケンカじみた低レベルのものになりかかったとき、ついに、見かねた若菜が結論を下した。
二輌のトレーラーベースは、結局、一号車二号車と呼ばれることになったのである。
一号車の搭乗員は若菜、加藤、越智、マーサ、それに、書類上は兵役をしりぞいたことになっているものの、本人の強い希望と、戦闘は不可能でもベース内でのマーサや越智のバックアップに力を発揮するだろう、という若菜の判断から、特に今回の作戦への参加が非公式に許可された出渕を加えた5名。
二号車には、ジェレミー、ヒラタ、麟、そして、由良がいた。
カタログでは定員9名と記載されている。が、彼らの使用する車輌は格納室の一部をコンパートメントに改造するなど、兵器としてはかなりぜいたくなものに作りかえられていた。
上層部が、それほどこの作戦に気をつかっているともいえた。
が、実際には、一輌は保険という考えだった。〝ゾーン〟深部から持ち帰られる情報の価値に較べれば、トレーラーベース一輌の損失など問題にならない。むしろ、二輌のうちの一輌は、はじめから捨て駒のあつかいだったのである。
事実、若菜は密かに「万一の場合には一輌を盾として……」といった指示をうけていた。

二号車のコクピットで、麟は暗視装置が写しだす〝ゾーン〟の風景をにらんでいた。
たえず変化を繰り返す〝ゾーン〟の中で、その地表もまた、けして不動のものではない。固い岩板のように見える地面が、ささいなきっかけで一瞬にして腐泥の底なし沼になることもある。
パイロットは、つねにモニターから、そこに写し出された以上のものを読みとらねばならなかった。

ナビゲーターシートのジェレミーが、頭の後ろで手を組んで、遠慮のない大きなあくびをもらした。
麟はそんなジェレミーを横目で見て、のどまで出かかった言葉を、咳ばらいでごまかした。麟が操縦席についてから、すでに何度目かの咳ばらいだった。
隊員たちは、原則として8時間交代で当直にあたっていた。最初の4時間を操縦にあたり、後の4時間をナビゲーターとしてすごす。たとえば、ジェレミーの当直時間が終ると交代の隊員がやってくる。すると、麟がナビゲーションシートに移って、新しく来た当直員が操縦席につき、ジェレミーは休息に入る、という具合だ。
モニターの中を得体の知れぬ半透明のぶよぶよした脂肪のかたまりに似たものが横切っていく。砂漠の根なし草のように、そのあたりではごくありふれたものだった。
ヒラタはそれを〝ゾーンの迷える魂〟とコメントしたが、そう呼ぶにはあまりにも醜悪なしろものだった。
麟が座りにくそうに腰を動かした。
「少し腰を伸せよ。オレが見ててやるから」
肩をゆすってジェレミーがいった。
「いいです。もう少しで、そっち移りますから」
「そうか……コーヒー、入れるか?」
「いえ、俺はいいです」
「そういうなよ、どうでもいいけど……」
ジェレミーがシートを回転させて、二つの紙コップにインスタントコーヒーを注いだ。
「酒じゃないのが情けないけどな、こいつを飲んで、のどにつかえてることをしゃべっちまったらどうなんだ」
「………」
麟は紙コップを受け取って、湯気が漂うコーヒーの表面を見つめていた。言おうか、どうしようか、決めかねているようだ。
「由良のことだろ」
ジェレミーがいった。
「ええ、実は、お願いが——」
「待った——ちょっと、待った。先に言っとくけど、当直順番の変更はできないんだ。それは、聞けない。いいか」
「そんな……なぜ?」
「チーフの命令だからさ」
「命令!?」
「ああ。これはどうでもいいことじゃない。おまえと由良が気まずい関係だってことは知ってる。だけんども、そいつが早く改善されることを、チーフ同様、オレも願ってる。理由は言わなくてもわかるな」
「……作戦行動を円滑に運ぶため」
ふてくされた子供みたいないいかたをした。
「たいへん良い答えだよ、麟。できるか? 今の状態で」
「俺は——」
麟が黙った。
「違う。オレはじゃない。オレたちは、だ」
「とゆうわけで、おまえと彼女とが一緒にいる時間は長い方がいい。それだけ、和解のチャンスがふえる。あとはおまえの努力しだいだ」
「俺の、ですか? 俺たちの、じゃなくて」
「この場合は、おまえの、だ」
ジェレミーは顔をしかめて言葉をつづけた。
「うまく言えない。だが……もしオレが訓練センターの教官だったら、たぶん、彼女は採用しなかったと思う。彼女は、ええと、なんだ……心理的二重傾向——」
「? なんていったんです?」
「心理的二重傾向——医者なら、そんな用語を使う。つまりは、病気だ。彼女の入隊動機を聞いたか?」
「〝ゾーン〟が憎い、と」
「それは動機の半分さ。残り半分では、彼女は〝ゾーン〟に食われることを望んでいる」
麟はモニターからジェレミーに眼を移した。
「ここから先はオレのひとりごとだ。チーフにも話してない。ま、無理に聞かなくてもいいけどな……」
そう前置きして話しだしたジェレミーは、いつもとはまるで別の人間のように見えた。
「パーティーがひけた後、彼女がオレの部屋をノックした。寝酒をつきあってくれ、という用件だった。もう充分すぎるほど飲んでいるのが一目でわかった。だから、オレはやんわりと断わった。彼女はあっさり納得してオレに背中を向けた。そのまま立ち止まって、

肩がふるえて、それから、あのこは大きな声をあげて泣いた。オレはあわてたよ。とりあえず部屋に入れたが、泣きやまなかった。

〃私はゾーンで死ぬんだ〃　繰り返し繰り返し、そうつぶやいていた。あるいは、口ばしっていた……そうすることで自分の罪が償われると考えているらしい…ばかな話だ」

麟はそんな由良を想像してみようとしたがうまくいかなかった。

「この旅に出る前に、センターにいる知りあいに聞いてみたんだ。彼女は女性にはめずらしく戦闘意欲充分な真のファイターだ、といっていた。だが、真のファイターは、どんなときにも勝ち残り、生き残る努力をおしまない。彼女のそれは破滅願望のゆがんだ表れにすぎない」

言葉を切って時計を見た。間もなく交代の時間だった。

「麟、由良には助けが必要なんだ」

「俺、医者じゃないですから」

「このトレーラーベースに医者はいない」

「でも……でも、彼女はあなたに助けを求めたんでしょ」

「冗談じゃない」

ニッと人なつこい笑みがこぼれた。

「寝酒の相手は誰でもよかったんだ。オレがことわったあと、立ち止まりさえしなければ、彼女は隣のドアを叩いただろう。オレはそう思う……麟、頼む、彼女に力を貸してくれ」

「俺は――」

「できる。なぜなら、症状はちがっても、由良とおまえとは、同じ病根をもっているからだ……頼む」

「……」

ジェレミーの言葉が妙に重たかった。

突然、ジェレミーが笑いだした。

「どうでもいいけど、オレはこおゆう話って苦手なんだよなぁ……まったく……チーフの説得力は尊敬にあたいするね、まったく……」

ドアが開いて、由良が入ってきた。

交代の時間に2分ほど早かった。

「さて、それじゃオレは休ませてもらおうか。後、よろしく」

いいつつ席を立ち、ジェレミーは二人を見て、麟にウィンクをすると出ていった。

麟がナビゲーションシートに移り、由良は無言のまま操縦席についた。

コクピットに二人だけになると、あたりにグリーンノートのコロンの香りが満ちた。

トレーラー内ではすべての水がリサイクルされる。しかし、シャワーに使用できるほどの水はなく、もとより、そんな設備もない。体臭を気にして、ふだんより多めにコロンをつけたのだろう。そろそろ、そんな時期なのだ。

麟はあらためて性別の違いを感じた。

「きつい？」

モニターを見たままで、由良がいった。

それが匂いのことをいっているのだと理解するまで、麟は3秒ほどの時間を必要とした。

「……いや」

「そう」

――沈黙。

コロンの匂いで性別の違いを感じるなど、麟にとって初めてのことだった。麟はジェレミーの話を咀嚼した。

心もちやつれて、CRTディスプレイの明りに照らされた由良はドキリとするほど美しかった。が、かつて彼女がそなえていた、野性の猫族特有のしなやかさは、そこにはなかった。あるのは、冷たい塑像のそれだ。

麟は言葉を捜してみた。

だが、由良に語りかける言葉を、彼はもっていなかった。

吐息まじりに、麟はジェレミーがくれたコーヒーに手を伸した。

〃このまま4時間、二人ともまた黙ったままかもしれないな……〃

ふと、そんな想いが頭をかすめた。

口にふくんだ冷めかけのコーヒーが、麟には、ひどく苦かった。

同じころ、一号車で加藤と交代したばかりの若菜が、マーサのコンパートメントの前に立ち、声をかけていいものかどうか、考えていた。

ドラの下からもれる明りは、彼女がまだ起きていることを示している。しかし、時間が時間だった。

〃明日にしよう〃

そう決めて、ドアの前を立ち去ろうとしたとき、内側からドアが開いて、マーサが顔を出した。

「あら」

両方で驚いたような顔になった。

「いや、何かわかったことがあったら聞いておこうと思ったんだが、もう遅いし、明日にしよう」

「別に気にしないで。特にわかったこともないけど、お茶でもいれます」

ニコッとなって、マーサがドアを大きく開けた。

「どうぞ」

「……そうですか」

若菜はボリボリと頭をかいて、マーサにつづいた。

狭いコンパートメントのそこここに〃ゾーン〃内から採集したサンプルとメモ、マーサの着替えや小物が散らばっていた。

〃確かに、これは女性の部屋だ〃と、若菜は変な感心のしかたをした。

「すみません、散らかってて」

紅茶の用意をしながら、はずかしそうにマーサがいった。

「狭いからな、仕方がない。しかし……このままでは、そのうちサンプルがあふれてしまうな」

「えぇ。そうならないうちに、必要なものとそうじゃないものを分けてしまおうと思って、整理してたんですけど……まだ、その見分けがつかないんです」
「格納室に整理棚を置くことを考えてみよう」
「ほんとですか!? 助かります!」
トレーラーベースにシールドが装備されたことがサンプルの回収を容易にした。
あきれかえるほど単純なシールドだった。焼けた鉄板の上に落ちた水滴は、その接点で水蒸気となって水滴自体を持ちあげるため、なかなか蒸発しない――このライデンフロスト現象をヒントにしたもので、要するにトレーラーの表面にごく微弱なエネルギーをリークするだけのものなのだ。が、これが〝ゾーン〟に対して、かなりの効果を発揮した。わずかなエネルギーが〝ゾーン〟とトレーラーとを見事に隔絶したのである。
このシールドにより、〝ゾーン〟の中での停止が可能になった。
自我の崩壊から身を守るために、〝ゾーン〟の中ではたえず動きつづけなければならなかった人類にとって、このシールドの発見は、大きな福音といえた。
「この二つのサンプルをどう思います?」
マーサが二つのポリ袋をさし出した。一方には、どろりと溶け崩れた灰皿が、もう一方には、1センチほどの透明な玉が数個、入っていた。
「ガラスか?」
「こっちはそうです」
マーサは溶けた灰皿を指さした。
「この玉は……なんていいましたっけ、日本人が宗教で使う――形は思い出せるんだけど、名前が……」
若菜はマーサから袋を受け取って、中の透明な玉を観察した。糸を通したと思われる穴があいていた。
「数珠?」
「そう、じゅず。水晶のじゅず玉です。このサンプルは、両方ともほぼ同じ場所で採集しました。これから推測できることがふたつあります。ひとつ、硬質の結晶(クリスタル)は〝ゾーン〟内でもきわめて安定である。そして、もうひとつ、ガラスが自然の状態でこのようになるまで、少くとも数百年の時間がかかります。これが意味することは――」
「熱で溶けたのではないのか?」
「火事で? その形跡はありませんでした。もちろん、まだまだ結論めいたものをいえる段階ではないのはわかっています。でも、これを見たとき、私はスミヤ理論を思い出さざるをえなかった。ハワイで話しましたよね」
「覚えている。〝ゾーン〟では時間のすすみかたが一定ではない……」
マーサが激しくうなずいた。
「でも、それだけでは何かがたりない。何かが……」
いいながら、マーサは爪をかんだ。考えごとをするときのくせらしい。彼女はティーポットの紅茶のことなど、すっかり忘れているようだった。
翌日の正午すぎ、最初に〝おかしい〟と気づいたのは一号車の加藤だった。
あたりは霧に閉ざされ、視界は数メートルときかない。
「越智、ベースを止めて、すぐに全員を集合させろ」
二号車でもヒラタが同じ異状を感じていた。一号車と二号車の間をあわただしく無線がとびかった。
二人が感じた異状とは、トレーラーベースはすでに日本海の海岸線を通過してしまったのではないか、というものだった。
ただちに、前線基地を出発してからのあらゆるデータがチェックされた。
その結果、計算による彼らの位置は海岸線の北2キロ±(プラスマイナス)0・6キロ。かつては日本海の

海底だった場所なのである。

一号車から有線の無人偵察機が打ち出された。

偵察機の赤外線カメラは、不鮮明な影像で前方に広がる沼沢地のような地形と、彼方にそびえ立つ、限界線に似たもうひとつの壁をとらえた。

その壁の存在は彼らを驚ろかすに充分なものだった。壁の向こうに何があるのか？　壁の向こう側こそが〝ディープ・ゾーン〟と呼ぶにふさわしい世界なのではないか……誰の想いも同じだった。

「行きますか」

誰にともなく、加藤がいった。

「チーフ！」

何かいいかけた若菜を、越智の声がさえぎった。

モニターに〝ディープ・ゾーン〟の壁をつき破ってこちらに進んでくる何かが写っていた。モニターではまだしみのようにしか見えない。しかし、それはバグであるはずだった。

「行くしかあるまい…戦闘スタンバイ！」

「一人をベースに残して、スタンバイだ！　人選はそちらにまかせる」

空電のノイズとともに、二号車に若菜の声がとびこんできた。

ジェレミーは瞬間、決断をためらった。

「オレが残る。おまえは由良と一緒にマッド・レミングに乗れ」

いいつつヒラタは、砲塔へのハッチに向かっていた。

「おいっ、こいつが一番目標になりやすいんだぞ！　しかもろくに動けない。いいのかっ……どうでもいいけど」

ヒラタは肩ごしに手を振っただけだった。

格納室でスーツをつけた由良を見て、麟は自分の眼を疑った。

彼女のスーツは、もっとも装甲の少ない、狙撃手用のイーグルアイ・スーツだったのだ。

〝こいつは本当に死ぬ気なのかもしれない〟

麟は思った。

「……由良」

由良がびっくりしたように麟を見た。

次の言葉が出てこない。麟は黙ったままでグイと親指を立てた。

だが、失敗だった。

由良はわずかに眉をひそめて、ヘルメットを装着した。

その横で、ジェレミーがこまったような笑みを浮かべて麟を見た。

麟も無理矢理、笑顔をつくってジェレミーに答えた。

「レディの初陣にお供できて光栄に思います」

おどけた調子でいって、ジェレミーがマッドレミングのガンナーシートについた。

麟にも、由良の緊張が手にとるようにわかった。

〝初陣か……コンディションが悪すぎる〟

ゆっくりと出撃ハッチが開いていき、格納室に外の霧が流れこむ。

マッドレミングのドライバーシートで、由良はいたいたしいほど小さく見えた。

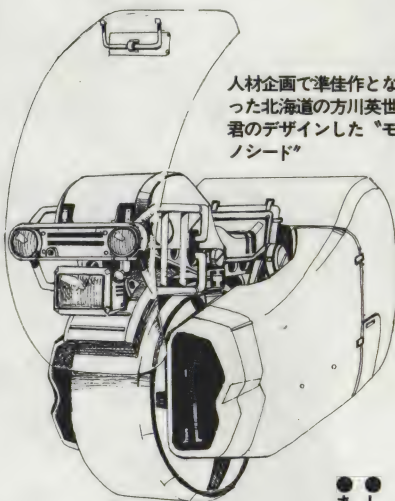
つづく

次回〝影〟

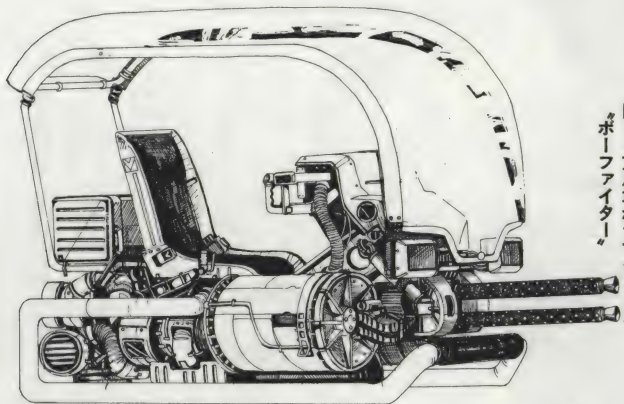
あなたもスパイラルゾーンのメカデザインに参加しませんか

イメージアルバムも完成し、オリジナルビデオ化の噂もちらほら、いよいよ盛り上がってきた「スパイラルゾーン」ですね。伊藤さんの小説も、これから、ますますおもしろくなりますよ。(早くギグを助け出して……)

さて、MJ読者の皆さん、あなたも、この〝スパイラルゾーン〟の企画に参加しませんか人材企画大募集で見せつけた、読者パワーに期待します。

SPIRAL ZONE MECHANISM DESIGN CONTEST
メカデザインコンテスト

人材企画で準佳作となった北海道の方川英世君のデザインした〝モノシード〟

〝スパイラルゾーン〟にはブルソリッドを始めとするプロテクトスーツ、モノシード等のメカニズムがストーリーの重要な役割を果しています。もちろん、これらは、玩具、模型等の商品化を考慮してのデザインなのです。

さあ、メカデザイン大好きなあなた、スパイラルゾーンのメカをデザインしてみませんか!?これこそ、スパイラルゾーンの世界観にふさわしい!という、プロテクトスーツやメカを考えてほしいのです。もしかすると、あなたの考えたメカデザインが、商品化されるかもしれないのです。

同じく方川君がデザインした〝ボーファイター〟

★応募方法

●テーマ――伊藤和典氏の小説「スパイラルゾーンの世界観に合うプロテクトスーツ、あるいはメカニズム。

●描き方――サイズ自由、描き方自由、ただし、形が良くわかる様に、前・後を描いて下さい。カラーでも一色でもOKです。

●しめ切り――昭和61年1月31日

●あて先――〒424静岡県清水市神師町702 バンダイ静岡工場 MJ編集部「スパイラルゾーン・メカコンテスト」係。

●採用された方には、デザイン料が支払われます。尚、応募された作品の著作権は、バンダイに帰属しますので、ご了承下さい。

●作品の返却はしません。

●発表は「模型情報」あるいは「Bクラブ」誌上におこないます。

スパイラルゾーン カセットブック 通販のお知らせ

先月号でお知らせしたスパイラルゾーンのイメージアルバム(12月21日ワーナーパイオニアより)を記念してカセットブックが完成しました。そこで、模型情報読者に特別通販を致します。このカセットブックをお買い上げの方、先着3,000名様を、S.F.G.の第1隊員として登録させていただくという特典付です。

●カセットテープ内容――■時間/約15分■原作・構成/伊藤和典■録音・演出/斯波重治■音楽/渡辺俊幸■主題歌/亜蘭知子

●ペーパーバック内容――■総ページ/約100ページ■模型情報連載の1～6話(伊藤和典著)■イメージアルバムの構成原案収録

●価格―1,500円(送料別350円)

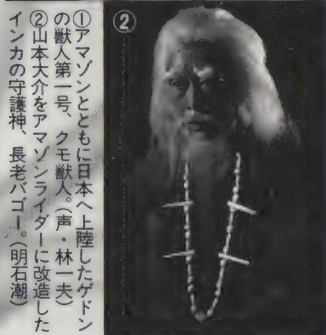
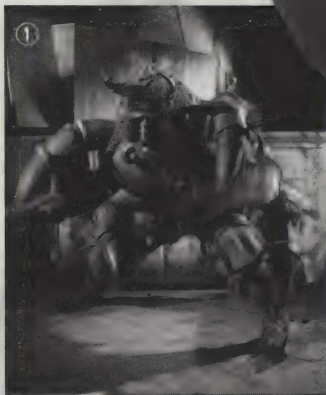
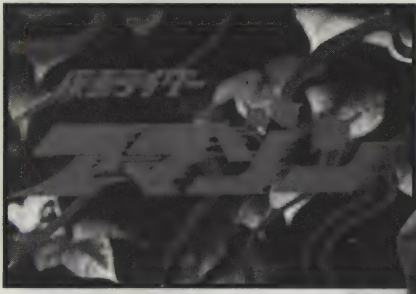
●特典―限定3,000名様に模型情報公認ファンクラブ、S.F.G.の第1次期隊員の会員カード――各種イベントや情報の優先をします――をさしあげます。

●お申し込み方法――下の申し込み用紙を切り取るか、コピーして必要事項を記入して、現金書留で代金(1,500円+350円)を同封の上、下記の住所まで

〒150 東京都渋谷区神山町10-3 神南ネットワークビル6F ㈱ネットワーク エモーションファミリークラブ

※尚、商品の発送には10日程かかります。

スパイラルゾーン カセットブック お申し込み用紙	住所 〒□□□-□□ 都道府県 市郡			
	氏名(ふりがな)	才	男・女	TEL ( )
	ご意見・ご希望			

MJメモリアル・ヒーロー・コレクション 8

●放映期間／昭和49年10月16日～50年3月29日(全24話)、●製作／東映、●放送局／毎日放送、●スタッフ／原作・石森章太郎（掲載・テレビマガジン、たのしい幼稚園、冒険王、テレビランド)、企画・平山亨、阿部征司、音楽・菊池俊輔、脚本・大門勲、鈴木生朗、伊上勝、村上庄三、松岡清治、監督・塚田正照、山田稔、折田至、内田一作、田口勝彦、●出演／アマゾン＝仮面ライダーアマゾン・岡崎徹、立花藤兵衛・小林昭二(3話～)、マサヒコ・松田洋治、リツ子・松岡まり子、高坂博士・北原義郎(1話)、モグラ獣人の声・池永通洋(5、6話)、櫨柳二(7～20話)、十面鬼ゴルゴスの声・沢りつお(1～14話)、ゼロ大帝・中田博久(14話～)、支配者の声・阪修、ナレーター・納谷五郎

〈山本大介、日本人、23歳。生まれて間もなく、両親とアマゾンで遭難、野獣の中で育ち、言葉も知らない。インカの守護神バゴーによって改造され、ギグの腕輪を託された。〉

①アマゾンとともに日本へ上陸したゲドンの獣人第一号、クモ獣人。(声・林一夫)
②山本大介をアマゾンライダーに改造したインカの守護神、長老バゴー。(明石潮)

嗚呼！懐かしの特撮ヒーロー達

③十面鬼とゲドン戦闘員の赤ジューシャ(女)。ガランダーの戦闘員は黒ジューシャ（男）である。十面鬼の顔岩には中村文称、中屋敷鉄也といった大野剣友会のメンバーが扮していた。
④アマゾン第二の敵、ガランダー帝国のゼロ大帝。(中田博久)
⑤中盤からのアマゾンのコスチューム。当初はパンツ一つだった。後方はマサヒコ少年と立花藤兵衛。

⑥歴代ライダーのオートバイの中で、最も奇妙なスタイリングをしている〝ジャングラー〟。アマゾンがバゴーから与えられた設計図を元に立花藤兵衛が製作した。(４話～)
⑦テレスドン……じゃない、ゲドンのワニ獣人に必殺技の〝大切断〟をお見舞するアマゾンライダー。ワニ獣人やヘビ獣人等はトカゲロンにひけをとらぬ、怪獣並みのボリュームある着ぐるみだった。
⑧ガランダー帝国を滅ぼし、日本を去るアマゾンこと山本大介。アマゾン役の岡崎徹は、この番組の前、「電撃！ストラダ５」に出演していた。後の仮面ライダーシリーズには「ストロンガー」と'76年１月３日に放映された特番「全員集合！７人の仮面ライダー」のみで、「仮面（スカイ）ライダー」、「スーパー・１」には登場していない。

▶成田亨◀ SPECIAL DESIGN WORK NO,11

強遠近法模型（模型に、強遠近法がなぜ必要か）

左図の様な軍艦を映画の特撮で撮影したいとします。左図はアメリカの重巡ウイチタ級です。そしてこれは東映映画「最後の特攻隊」のラストに近い重要な一シーンです。右側から主役の特攻機がこのウイチタの司令塔の後へ突入しウイチタが大爆発をおこすシーンの中での特に重要なカットです。

今まで何度もやってきた撮影法ではこのカットは撮れないと私は判断しました。つまり2メートル70センチ位の模型のウイチタをプールに浮かべて撮る従来の方法では駄目なのです。

左図のウイチタはウイチタから一〇〇メートル位はなれた海面のボートの上から見た感じに私は描いています。見上げた感じです。

この角度のウイチタにしないとウイチタの巨大感は出ないし、巨大感が出ないとドラマの悲壮感は半減します。

2メートル70センチの模型をプールに浮かべると吃水線から甲板までの高さが15センチ位になります。

この模型は爆破するのでカメラはハイスピード・キャメラを使います。4倍位の高速で撮影します。このハイスピード・ミッチェルがプールサイドで構えるのですがカメラにはマガジンがついています。この高さは約20センチ、レンズの中心までの半分がシンだから10センチ、プールには波を立てるのですがカメラのレンズはこの波をすれすれまでですが10センチ逃げます。両方合わせて20センチ。

つまりカメラのシンの方が模型の甲板より高いのです。これで撮影すると近づいて来たウイチタは見下ろした感じになります。もっと大きな模型を作るとプールを動かす距離が減ります。シュノーケル・カメラで撮ればいいのですが、この映画の時はシュノーケルはまだありませんでした。あったとしてもシュノーケルはレンタル料が非常に高価なカメラです。

今一つの問題があります。2メートル70センチのウイチタに寸法を合わせて零戦特攻機を突入させると零戦は10センチ位になります。10センチの零戦では小さ過ぎて爆破の迫力は望めません。爆破の効果を出すには50センチの零戦が突入する必要があります。

それらの凡ての問題を解決してくれるのが強遠近法ミニチュアーです。この方法だと完全にウイチタの大きさを表現できます。模型とは言ってもかなり大きなものになるので模型の方は固定してカメラがトラック・アップ（前進）してウイチタが近づく感じを出します。

私は強遠近法のミニチュアーをかなりの映画で作っていますが、このミニチュアーはこの一カットがこの映画の勝負と言った感じのカットにのみ生きますがその一カット以外には使えません。前方から遠近のついているミニチュアーは横からとか後ろからは撮れないからです。だからテレビ映画の特撮では殆んど使いません。テレビ映画では一方の角度からしか撮れないミニチュアーは作りにくいのとテレビ映画は忙がし過ぎてそこまで狙っているヒマがないのです。唯一の例外はマイティジャックの地下基地のセットです。

模型は大きいほど迫力が出ます。大きな模型を作ると大きなプールと大きなステージが必要になります。大プール、大ステージは大き過ぎて始末が悪いと言う結果もでてきます。

またミニチュアーをいくら大きくして迫力を出しても所詮ホンモノにはかないません。

特撮とは何かの原点に帰ってリアリズムを求めると私は強遠近法しかないと思っています。

今の所この方法でセット作りをしているのは世界中で私だけですがもっと多くの人が気づいてもいいのではないでしょうか。

新製品 HOBBY

1. 機動戦士Zガンダム 1/144スケール ガブスレー

ティターンズのジェリドとマウアーが使用したガブスレイをプロポーション重視のモビルスーツ形態で再現、ポリキャップ使用。武器は専用フェーダインライフルが付きます。
★12月発売予定 ★小売価格￥700

2. 機動戦士Zガンダム 1/144スケール メタス

エゥーゴで主に女性パイロットの使用する新型モビルスーツ。モビルアーマー形態に変形可能。また両腕に収納式ビームライフルを装備。各関節可動、ポリキャップ使用。
★12月発売予定 ★小売価格￥700

3. 機動戦士Zガンダム 1/144スケール ハンブラビ

ヤザン・ゲーブルの新モビルスーツ、ハンブラビが1/144で登場、あの独特のフォルムを再現し、さらにモビルアーマー形態にも変形可能となっています。各関節可動、ポリキャップ使用。
★12月発売予定 ★小売価格￥600

4. 機動戦士Zガンダム 1/220スケール ガンダムMk II

接着剤不要のはめ込式です。ビームライフル、シールド、バズーカ、ガンポット付。
★12月発売予定 ★小売価格￥300

5. 機動戦士Zガンダム 1/220スケール リックディアス

★12月発売予定 ★小売価格￥300

6. 機動戦士Zガンダム 1/220スケール Zガンダム

★12月発売予定 ★小売価格￥300

7. 蒼き流星レイズナー 1/72スケール レイズナー

SPTレイズナーの主役メカ、レイズナーが1/72スケールで登場。バックパック、腰、脚、腕、頭、脚部ミサイル取りはずし可能、風防は透明パーツを使い、さらにダイカスト製ライフル付。ポリキャップ使用。
★12月発売予定 ★小売価格￥800

8. 蒼き流星レイズナー 1/100スケール ブルグレン

ゴステロの使用するSPTです。風防にはクリアパーツを使用。
★12月発売予定 ★小売価格￥300

9. 蒼き流星レイズナー 1/100スケール ブレイバー

一般型SPT、バックパック、手、脚、頭は他のSPTと交換可能。
★12月発売予定 ★小売価格￥300

10. 蒼き流星レイズナー 1/100スケール ドトール

地上用のSPT、頭部クリアパーツのキャノピーは開閉可能。
★12月発売予定 ★小売価格￥300

18. アーマードレディ 1/12 Zガンダムレディ

美少女とメカがドッキングしたプラモデル気分で手軽に組み立てられるフィギュア。
★12月発売予定　★小売価格￥1,500

B-CLUB 3

ビークラブ3号は増々内容充実・好評の速水仁司によるファンド造型第2弾、1/30レイズナーを始め、石井和夫によるフィギュア造型法、さらにフォウと、カミーユによるデートディオラマ。また特別寄稿として小林誠によるZガンダム・デザインワークなど、わかりやすい造型法と質の高い作品が満載です。またZガンダムの28話以後のエピソードと設定も掲載、マテリアル並みのボリュームになっています。読者の作品も掲載し、さらに開かれた誌面となっています。増ページ100P
★12月中旬発行　★小売価格￥650

13. スパイラルゾーン 1/12スケール センチネルベア

スパイラルゾーンシリーズ第3弾スーツ。36ヶ所可動フィギュア（マードック・ヒラタ）にアーマー、ヘルメット、大型パックを装着することができる。右腕のビームガンは脱着可能。手首は通常と手袋の2組入り。
★12月発売予定　★小売価格￥3,500

14. 超時空要塞マクロス 1/72スケール 可変VF-1A

3タイプに変形可能
★12月発売予定　★小売価格￥1,500

15. 超時空要塞マクロス 1/72スケール 可変VF-1D

復座型VF-1Dの3タイプ可変キット。
★12月発売予定　★小売価格￥1,500

16. 超時空要塞マクロス 1/100スケール 可変 スーパーバルキリー VF-1Jマックス

ビーム砲装備のＶＦ-１Ｊマックスタイプです。TV、映画にない新設定です。
★12月発売予定　★小売価格￥800

17. 超時空要塞マクロス 1/100スケール 可変 スーパーバルキリー VF-1Jマックス

★12月発売予定　★小売価格￥800

11. 蒼き流星レイズナー 1/100スケール ベイブル

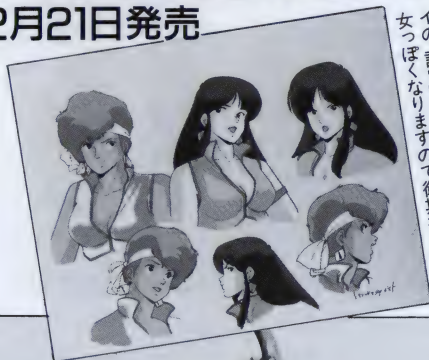
地球人のディビットが使用するSPT。各関接可動。
★12月発売予定　★小売価格￥300

12. ラブリーギャルスコレクション 魔法の天使クリィミーマミ マミ&ユウ

ラブリーギャルズコレクションの第2弾、もうおなじみのクリィミーマミと森沢優です。マミはオリジナルビデオ〝ロング・グッドバイ〟の劇中劇での由理の衣装で登場、また優はカワイイ普段着です。二体とも完全完成済で、市販の同サイズの人形の服を着せる事が出来ます。
★12月発売予定　★小売価格各￥3,800

エモーション・ビデオフォーラム

EMOTION VIDEO FORUM 出張版

年末一番の期待作 「ダーティペア」オリジナル 12月21日発売

広告、ポスター等に使われたユリとケイの「設定」。しかし、「本篇」ではもっと女っぽくなりますので御期待下さい。

「ウルトラQ」第一話「ゴメスを倒せ！」。放映20年を経ても新鮮さを失わない語り口が見事で、やはり永遠の傑作シリーズだ。

注目の完全オリジナル版「ダーティペア～ノーランディアの謎」。21日の発売にかけて、日本サンライズのスタッフが総力をあげて、最後の追い込みにはいっています。

ストーリーは、アッとおどろくドンデン返しの連続で、破天荒なドラマの展開。

今回ビデオ用にリファインされたユリとケイも、原作に近いと大好評で、多大の声援を背に受けつつ、テレビでは見られないビデオならではの大活躍をしますので、お楽しみに。

さて、今回の特典は、業界初の「ダブルカセットパック」。ビデオと、オーディオのカセットが２本はいった豪華版です。なぜミュージックカセットなのかと言えば、このビデオの音楽は全て新曲オリジナル。主題歌も新曲なのに、レコードは発売されないため、それが欲しいファンのために特典として、つけてしまおうと考えたからです。

おまけにもう１つ。ユリとケイが使う「ブラディカード」もダブル特典として入っています。

カラー、ステレオHifi55分、9,800円にて発売します。

20年目の復活 LD(レーザー式ディスク)「ウルトラQ」発売 ～マグマ大使も待機中

来年１月２日で放映開始満20年を迎える「ウルトラQ」が、12月21日、レーザー式ディスクにて登場します。

第一巻目は、第一話「ゴメスを倒せ」、第二話「五郎とゴロー」、第三話「宇宙からの贈り物」、第四話「マンモスフラワー」の豪華４本立。

現状保存の35ミリネガよりのニュープリント（一部16ミリ）にて、最長、最良の状態にて放映当時を再現、これ以上は今後も不可能という画期的なバージョンです。

ただ、一部作品には既にクレジットタイトルがないものもある為、全作品のタイトルをノンクレジットとし、現存するものは、付録としました。今回は「五郎とゴロー」、「マンモスフラワー」がそれです。

「ウルトラセブン」同様、８ページ未公表写真集がつき、また開田裕治氏書きおろし「ナメゴン」のカラーイラストをも収録しました。

定価は9,800円(モノクロ108分)。

なお１月には、同じく20周年を迎えた「マグマ大使」も、怪獣中心の編集構成版総集篇にて登場の予定。御期待下さい。

堂々完成 「ヤマタのオロチの逆襲」 ～次回作スタッフ募集も企画中

前号で製作風景をお見せした「オロチ」が、オリジナルの音楽と、東北新社の協力による迫力あるステレオ効果サウンドを伴い、製作開始２年目にして遂に完成しました。

音楽作曲は新鋭作曲家の中村暢之。怪獣映画特有の重厚なサウンドと、カッコイイマーチ、そして現代音楽が組み合わされた見事なもので、この音楽、サントラ盤レコードとしての発売も予定しています。

また特に大変だったのが効果音。全篇の大半が市街戦であり、84式戦車、新型ロケット砲、ヒューイコブラ等が発射し、着弾して爆発する箇所がのべ1,000ヶ所近くもあり、膨大な作業だったのです。

今回のビデオは、特典として32ページの製作過程の実録本がついています。

アマチュアフィルムの意気込みをまざまざと見せてくれるこの映画、プロの方々からも早くも絶賛の声が寄せられています。

このビデオは借りても見れますので、その成果の程は自分の目で確認して下さい。

なおEMOTIONでは、こうした映像作品を作りたい、というアマチュアフィルムメーカーの大募集を企画中。プロがサポートする展開の中で、皆さんにもチャンスを与えたい、と考えています。近々誌面にて告知しますので、もうしばらくお待ちの程を。

※「八岐之大蛇(ヤマタノオロチ)の逆襲」のビデオテープは、カラー88分（メイキング５分付)、ステレオHifiサウンドにて￥14,000です。

MJ劇場

Q&A 鳥山劣

どーして「MJ劇場」描かないのですか？

んー、実は受験勉強の為休業しているのですよ…

今のセリフ説得力ないぞお前

THE ART OF L-GAIM

私は常連！ HOBBY SHOP REPORT

ホビーショップ コトブキ屋

●MJ臨時特派員 磯貝東男

初めまして。毎月模型情報を読ませてもらっています。自己紹介をします。S48年2月28日生、中学1年生、モデラー歴5年位です。ぼくはZガンダムがすきで夏休みに、高島屋プラモコンテストで第1位、ガンダムMkIIを出しました。今、レポートしているお店で11月にプラモコンテストがあるので出品します。モデラーの川口さんが昨年一度来て、しんさをしました。

次にお店の紹介。名前はホビーショップコトブキ屋。若い人が店番していて明るい店です。ガンダムプラモがかざってあります。レポートにいった時3人いました。デパートの中にあり行くとき少し苦労します。材料もたくさんありモデルガン、RCカー、プラモ、ハイコンプリートモデルなど品もたくさんあります。写真をとる時、にっこりわらって、「いいよ」といってくれました。新しいZのプラモデルが発売されると、1時間から1時間30分もすると売り切れになって手に入らない時があります。小田雅弘さんや他のモデラーのみなさん、全国のモデラーのみなさん、一度きてみて下さい。いいわすれましたがここは、東京都立川市、レポートした店は立川市の第一デパート3階、ぼくの名前は磯貝東男といいます。

イイダ模型

●MJ臨時特派員／明神 宗

私の紹介したいお店は高知県高知市中宝永町五—四にある〝イイダ模型〟という、路面電車が、国道55号線の中央を走る、高知の街の中心より、五分程の所にあります。開業は10年位前になりますが、この10月22日に、新改装オープンしたての模型店です。古くからの常連さんはもちろん、いくつかの試みで、新規の固定客をと、日々考えていらっしゃる経営者の飯田さん御夫婦は、御主人の以前の勤務先が、運輸省航空局という事もあり飛行機マニアであり、またミリタリー等にも大変詳しく、また品揃えも、BANDAIさん等のアニメプラモや、戦車、飛行機、車、バイク、またラジコンは自ら組立、修理をこなし、年に何回か大会も開かれるという〝ガッチャマン〟です。また外プラや、一部ガレージキットや絶版キットなども、入手可能な限り取り揃えてくれる、マニアや常連には大変ありがたいお店です。かく申す、私も、旧ガンプラ時代からのモデラーの、ほんの駆け出しでイイダ模型さんとはここ3～4年のお付き合いで、一人前に常連顔させていただいているいわゆる〝積んどく型モデラー〟の一人でして随分無理も聞いてもらっている昨今でありますが、常連同志気軽にいろんな事をダベったりもできるアットホームな雰囲気のあるお店です。

国道から、僅か10m程北側に入り込んでいる為、少し目立たないかも知れませんが、全国のモデラーの皆さん、高知にお越しの折には、是非一度寄ってみて下さい。小じんまりした明るい気軽に入れる良いお店です。高知のイイダ模型をよろしく!!

レポート応募規定

①紹介文——自己紹介とお店の紹介を四百字詰原稿用紙2枚以内にまとめて書いて下さい。

②写真——あなたとお店の写真数枚

●あて先——〒424静岡県清水市袖師町702 (株)バンダイ静岡工場 MJ編集部「ホビーショップレポート係」まで

※レポート採用者には記念品をさし上げます。

Plamo Personality CLUB

プラモ個性派倶楽部

プラモ個性派倶楽部も最初の頃とはだいぶ雰囲気が変わってきました。もっともっと個性を主張しよう。腕ききモデラーにはBクラブより作例の発注があるよ。

▲埼玉県／星野健二郎(16)　RMS-108Rマラサイ突撃機動部隊所属機。1/144スケール。改造のポイントは、頭部にグフ飛行型のパーツを取り付けたところ。胸はパテで前方にボリュームアップ。前方のスカート可動式に変更。専用メガランチャーはザクIIのものを改造。

▶北海道／宮崎智(18)　全長35・2センチのスターライト号。仕上げも写真もベリーグッド。製作期間・約3ケ月だそうだ。バンダイのキット化は残念ながら、ボツになりそうだ。ゴメンナサイ。

▲川崎市／吉川和篤(21)　はに丸。今、巷でひそかに評判の、はに丸です。材料は焼いたフォルモを芯にして、ファンド、エポパテと盛っていき、仕上げは溶きパテ。いや、良くできてます。次回は年代別サザエさん一家フィギュアですって!?本当。

▲▶神奈川県／長崎美治　6月号のリックドムジオラマに続いての投稿1/144フルスクラッチ。全高は128.5ミリ。カメラアイ発光、各関節可動コクピットハッチ、バズーカラッチシールドはパーツ換えで、それぞれ開状態と収納状態を再現できる。はっきり言ってキットよりカッコイイ。

▶千葉県／山本衛　オーラガンダム　これくらい個性的な造型は、このコーナーにふさわしいですよ。最近のMSデザインは、だいぶAB的な曲面を多様しているので、Zガンダムに登場しても不思議ではないかもね。誰も考えつかない凄いアイデアを形にしたい、との事です。次回作に期待！

▶大阪府／栗野たかし　1/144ディフェンサー。自称、飛行機モデラぁくずれの、なんでも作るぞモデラー。製作期間は3日（早い！）だということです。現在、友だちと1/144アーガマ（全長2・5m）を製作中。

▶埼玉県／高橋久直　1/144ガンダムMkII改造。頭部胸部を改修している。

▲新潟県／結城　正　ラムちゃん。ラムちゃんの人気は相変わらずです。フォルモとパテで製作日数２～３ヶ月。フィギュア初体験だって、やるもんです。

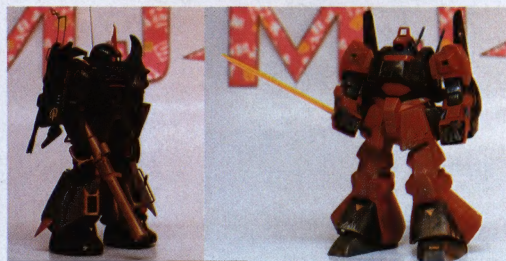
▲平塚市／岡本じゅん　うる星やつらのメガネ君が徹夜で作った重モビルスーツ「HMS-01」(右)と、マジカルエミのエミちゃん(左)。フィギュア３作目というにしてはなかなか。もう少し仕上げに気を入れるともっと良くなるよ。

▲大阪府／森沢　翔 ロンググッドバイ版「森沢　優」ちゃん。森沢君はマミのコンテストでも入賞しているフィギュアモデラー。スケールは1/8。次回作は舞ちゃんだそうです。

▶兵庫県／武岡敏浩(7)　1／10ジャギ　ジャギは顔がマスクをかぶっているので他のキャラに比べると楽だね。でも上達するには、あえて難しいものに挑戦しないとね。

▶茨木市／樽岡敬隆　ガラモン　バンダイのキットの改造です。樽岡さんは2児の父親だそうです。一緒に特撮メカデザインも届きました。

▶川崎市／三橋純一(20)　10月に載ったパティは半年前の作品だそうです。今回は、フィギュア第3作目。スケールは1／5。T社のフィギュアを芯にエポパテを盛ったり削ったりです。胸とお尻は、もう少し大きい方が……。あ、いやこれは私の主観です。写真もうまい。

▶茨城県／小倉　靖。小学生の時に作ってスクラップ寸前のものをリストアップ。懐しいサブマリン707です。再販はできそうもないですよ。

▲茨城県／グレートモデラーズ・K　ザクとハイザックの初期中間型。キットをうまく組み合わせていますね。▲茨城県／池田昌一 RMS-099（シャア専用）メインカメラにBB弾を使用。左のグレートモデラーズKさんとは友だちどうしだそうです。

Contest コンテスト

吉祥寺のホビーショップ・ラークさんよりコンテストの作品が届きました。ラークさんはプラモデルに力を入れているだけあって、コンテスト参加者も実力のある人が多いですね。これだけ腕のいい人がたくさんいるとホビー誌のライターさんも、うかうかしていられないんじゃないかな。MJの兄貴分のBクラブでも作例をお願いしちゃおうかな。

▼神奈川県／鶴岡耕次郎

前略、模型情報毎回楽しく読ませていただいております。5才の時から模型作りを始めて24年、長いつきあいをしております。

ところで、11月号のMJメモリアルヒーローコレクションのキカイダー等の乗っておりましたバイクの車種について教えてほしい旨書いてありましたのでお教えしたいと思います。（という程のものではないか）まずキカイダー変身後に乗るサイドカーですが、あれはカワサキの名車、マッハⅢSS500だと思います。2ストローク3気筒なんてバイクは数少ないですし、3本マフラーのバイクは、一連のマッハシリーズ以外、今日までに発売されておりません。

放映当時高校一年生だった私は、あのバイクが出るたびワクワクしながら見ておりまして、とうとう翌年マッハを買ってしまったほどです。ものすごいケムリをはきながら、ハンドルを目いっぱいきってUターンする姿はもうサイコーでした、仮面ライダーのモトクロッサーもどきバイクなんぞめじゃなかったんです。（何といっても、当時マッハは事故れば即死確実といわれた非常にピーキーなバイクだったのです）それと、この写真で見ると、フロントのサスペンションがリヤ用のものとなっており、かなり改造してあります。変身前のバイクは同じマッハの350で、もしかしたら変身後のバイクも350の物を使っているかも知れませんが、いずれもマッハSSシリーズである事は間違いありません。ハカイダーのバイクはどちらもマッハⅢ350で、キカイダーのジローバイクと同じですが、フロントがディスクブレーキになっているので年式的に新しい車種です。01、ワルダーも同じバイクで、年式的にもジローのバイクと同じ物であると思われます。これだけのパワーがあるバイクを使ってのアクシEンは今だキカイダー以外お目にかかっておりません。すばらしい番組でした！（今は私はスズキカタナに乗っております）

埼玉県／清水　誠人

▶東京都／土屋卓巳

★たくさんの手紙ありがとう。現在17通の手紙がありました。中には資料や図解で説明してくれる人もいてよくわかった……と思ったらハカイダーのバイクが350と750の二つの意見に分かれてしまいました。どっちなんでしょう！（また手紙がいっぱい来るかな？）

73の天竹君に対抗します。流星人間ゾーンのマイティ・ライナーのベース車は何だろうか。それは47年9月20日に発表した「ケンメリ・スカイライン」なのだ。この車種のラインナップには、総生産台数197台も売り上げた2000GT―Rが見られた。特に2ドアクーペに至っては先代のセリカXXやCR―Xのようなサイドビューで、先代のスカイラインとは全くの別物だ。といっても2ドアハードトップである。ベース車は？といったもののずばり―発ケンメリなんだが2ドアクーペの2000GTXなのだ。この2000GTXにルーフトップエアインテーク、カスタムタイプレーシングジャケット、シルエットフォーミュラー調リアウイング、サイドジェットウイング、バーニアスラスターを装着すれば本当のマイティライナーになるのだ。現にマイティライナーはケンメリがベース車だ。また先に書いたように2000GT―Rが2ドアクーペのラインナップに見られた。これはゾーンがテレビスタートした年の48年の1月26日に追加されたもので2ケ月後の3月末には生産中止の憂き目を見て総生産台数197台のGT―Rは「非運のケンメリ」といわれたということです。というわけでそのケンメリスカイラインはマイティライナーのベース車ということになる。ケンメリ、バンザイ。

P・S①初代ゴジラ増産して下さい。

②ZガンダムシリーズにM_kⅡ用フライングアーマーを白旗付で出して下さい。

③カワルドスーツのアーガマまでですか？1/100ギャリアペーパークラフトブック増刷して下さい。

新潟県／ドクター・ペッパー

MOMO
Fairy Princess Minky Momo
モモのマテリアル、いよいよ発売ですね！ヤックゼ！マミのマテリアルは実に実に良かったので今回もすんごく期待しております。設定資料はどかっとのせてくださいね。それから、読者からのイラストもふんだんに載せてください。
とにもかくにも期待してます！
—Someday Somertime!

▼神戸市／岩崎義久

★まだまだベースのわからない改造車はいっぱいありますね。永遠のナゾポインターとか、ガンバロウね。

前略、初めておたよりします。貴社のプラモデルは数年前から買わせていただいていますが、今はやはり「Zガンダム」ですネ。この間1/220のメッサーラを買いましたが、やはり1/144ぐらいで変型も完璧にしてほしかったです。そういえば10月号にボツがどうのこうのと書いてありましたが、まさかキュベレイをボツにするんじゃないでしょうね!? 僕はあのデザインが好きですのでぜひともキット化おねがいします。あとパラス・アテネ、ハンブラビ、ディジェもよろしく。ところで話はかわりますが、私はダーティペアがどわいすきなのです。今度オリジナルビデオがでるそうですがうちにはビデオがないのです。グッスン。というわけでダーティペアのMJマテリアルを出してほしいのです。ユリとケイの大人っぽくなった姿をぜひ資料で見たり！ついでにフィギュア化もおねがいします。テレビ版はソフトビニールででるそうですので、北斗の拳みたいなキットがほしいです。そういえば、北斗の拳のフィギュアこの頃でませんね。あと1/12でシン、レイ、トキ、ラオウぐらいほしいです。きたない字ですみません。ではさようなら。

大阪府／アーサーロビンⅢ

★Zガンダムは後半になってゾクゾク新MSが登場しますね。ボツにならないよう努力します。

うわーい！バンダイさん、ペーパークラフトブックの第2弾がZガンダムの頭とは仲々エグイですネ！今後もこーしたキット化不可能アイテムにドンドン挑戦して下せえ！でもまずはギャリア同様、ボツメカシリーズ化をしてホシイ所です。シリーズ自体ボツたものから、ザブングル以降のボツメカの大群までの中よりセレクトして、各スケールで是非ともオネガイします（まあ、A・Bだけはムリか）特に今回キット化しそーもないメッサーラ・アッシマー・サイコガンダムの1/144サイズなんかどーでしょうか？　旧作ではザブングルのドラン・ブラッカリィや、エルガイムのベアズ、ガライム、アトール、オージェ、テンプルシリーズにバイファムのARVシリーズ、ガンダムのモビルシップ・脇メカ・オプション、MSV、MS―Xシリーズ等、ペーパークラフトでもファンが欲しがり、なおかつメーカーへの不満を押さえるアイテムはまだまだ有りますゾ！地味でえーからガンバッテネ!! また、11月創刊のBクラブですが、「創刊号を読んだ読者は……言々」の予告からして、もしかして、最近MJでよく意見を見かけるボツメカ図面集が載ってたりして!!とまあ勝手ですがこれも期待しまーす!!（舞い上がってんナ）

茨城県／ボツメカ供養地蔵

★ペーパークラフトは一枚の紙から色々な物を造り出します。基本さえつかめれば自分の世界が広がります。みなさんも挑戦して下さい。

蒼き流星SPT「レイズナー」を見ました。とてもおもしろいですね。

◀兵庫県／SPT（スカポンタン）堀口朝也

ダンクーガの模型化はどうした!?

「ふ・ふーむ」にも誰もとりあげないのはどういう事だ!!
4月号に新番組紹介、7月号に木型のモノクロ写真と新製品レポートにDX超合金の写真
たったこれだけしか、とりあつかわれていない!!
Zガンダムと人気を2分にするこの作品に対してこの差はなんなんだ〜。
このファンの怒りをしずめるには模型化をしなければならない!!
4機合体とはいかなくても「プロポーション重視のダンクーガ」及び「デスグローム」「ゼイファ」はほしい「1/72 イーグルファイター」もいいな
MJ読者のみなさま ダンクーガをみないと やってやるぜっ!!

SUGGER 60.9.30

▲香川県／佐藤安浩

メカ（SPT）は全てとてもかっこいい。バンダイさんはこのすばらしい作品の模型化を手がけることになったそうですね。そこでぼくは、プラモデルについてたくさん注文をさせていただきたい。スケールは1／48と1／72の二種類、エイジ用レイズナーは1／24スケールでもだしてほしい（価格は三千円位で）　もちろんポリキャップを各関節に使用してほしい。コクピットもせいみつに再現してほしい。それから、1／144スケールで情景モデルをだしてほしい。各種キャラクターのフィギュアもだして。エイジは1／12と1／20で、その他は全て1／20でおねがい。パーティジョイもだして、ハイコンもだして！

ながながとぼくの希望ばかり書いてすみません。けれどきっとぼくの希望にこたえて下さい。あ、それからビデオ化も忘れずに、バンダイさんこれからもがんばって下さい。さようなら。

大阪府／内藤良平

★レイズナーについての意見はまだまだ少ないよ、もっとたくさんの意見・希望を待ってます。

ZガンダムにおいてのMSV
貴誌11月号6ページの〝MSVの言い訳け〟を読ませていただきました。全くの正論であると思います。まだ疑問を持たれる諸君はホビージャパン、モデルグラフィックス、マークI等にとりあげられているMSVの素晴らしい仕上りをご覧下さい。イメージの固定どころか、果てしないイメージの広がりを見られるでしょう。Zガンダムのドラマ中にも、もっと旧型MS、MSVをもっと出してもらいたい。新型ばかりがドカドカ登場するなどかつてのガンダムの世界から伝えられているMS系譜を破壊するものではありませんか？

MSV箱変えも、もっと堂々と出して下さいよ、バンダイさん。種類が多いというのは可能性です。その可能性を、たわけた「固定」といってしまう貧困なイメージを笑いとばして下さい。キットは素材。この一言に尽きると思います。

神奈川県／TDF・PO―II

★他の意見を待ってます。

こんにちは、また好き勝手な事を書きます。まずは、祝MJ劇場復活!!さすが鳥山さん、アッシマーからスケ番刑事とは（黒十字総統もでてーしたもんだ）この調子で頑張って下さい。それからタイトルは、前の方がイイですよ。

近頃ふろーむには、フィギュアばっかりですけど、私はしつこくZシリーズです。ギャプランはやっぱり変型ですか、ま、いいや、自分でスタイル第一にしよう。ガブスレイ、ハンブラビ（海ヘビ付で）1／144を楽しみにしてます。（変型しない方がいいな）　新MSですが、バイアランは実にカッコイイ。HM・ABに似てるといわれてもいい、無変型というのがまたいい、1／144お願いしますよ。デイジェも画面に出て来ましたが、仲々いいんじゃないかな。バウンドドッグですが、うーん言葉に詰まる（タイムボカンに出て来そうだ）。MSが沢山でて来たけど、毎年のようだけど、ALLKIT化お願いしますよ。2・3ボツになりそうだけど（某ガザCとか）……レイズナーが長野でも始まりました。あんまり好きになれませんね。友人O（彼はローディストだそうです）もイヤダと言ってました。（ファンの人、ゴメンナサイ）

所で、こちらはB―CLUBが来るのが遅いのですか？来月号から早くしてもらいたいです。

P・S　レッドバロン、アイアンキング、ダイヤモンドアイ（知ってるかな？）特集して下さいよー。

長野県／CUE

★Bクラブはもう見てもらえたかな？

はじめてお便りします。バンダイさんすごいですね、マクロスのシリーズをだしましたね、これからもどんどんだして下さいョ。ぼくはマクロスの大ファンなんですよ。そのためにたのみたい事があるのですヨ！そ、それは劇場版マクロスです。前から考えていたんですが模型化するのは、かなり難しいのでは、と思いつつお便りしました。どうでしょう劇場用のマクロスを一ちょ出してみては、それからスーパーオストリッチを出してくだせえ―マクロスの話はこれで終わりにしましょう。デフォルメZガンダムを〝ガチャ〟ポンしましたヨ、2回やりました。一発でMkIIと百式がでました。MkIIと100式が出ればいいなあと思っていたんですよ。家に帰って組みあげてみました。おもわずGOODエルガイムのデフォルメよりもパーツが多く間節がふえていいですね。これからも期待します。Zガンダムの1／100を出すそうですね、大いに期待！そうそうSPTレイズナー大期待です。

最後に劇場用マクロス・スーパーオストリッチ、デフォルメZガンダム、SPTレイズナーなどなど期待していますよ。

P・S　期待、期待といっておしつけがましくスミマセン。ではまたお便りします。バイバイ。

岡山県／田渕健吾

★マクロスには多くの意見がよせられましたが、バンダイで現在企画中のアドバンストバルキリーを展開して行く上で必要な事だったと考えています。御意見をお聞かせ下さい。

◀東京都／高地慶

▶神奈川県／牧野良彦

▶静岡県／赤わにですぴ

▲大分県／三酒和人

▼その日、私は仕事中ばにして東京へ向った。空はどんよりと淀み、私の身に起ころうとしている事を暗示しているかの様だった。

中央線のとある駅に着くとすでに20時を回っていた。私の向う所、それは〝ゾーン〟の中心地なのだ!!

そうです。僕はその日伊藤和典さんのお宅へ〝スパイラルゾーン〟の原稿を取りに行ったのです。伊藤さんは明るく「まだ」とおっしゃいました。編集長も「原稿もらうまで帰って来るな」と明るくおっしゃいました。僕は一人高田さんの作って下さったおいしいスパゲッティを暗く食べていました。東京の夜はふけて行きました。伊藤さん〝裏窓〟〝日本沈没〟〝狼の血族〟〝ガメラ対バルゴン〟面白かったです。

（あんびる）

▼前号で、レイズナーの新SPT設定を発表すると予告しましたが、都合で次号となりました。代わりに速水仁司氏製作のレイズナー（1／30）の写真を掲載しました。模型誌でも、H・Jで小沢勝三、M・Gで草刈健一氏がフルスクラッチに挑戦しているそうです。1／100スケールのキットも発売になったことですから、あなたも、レイズナーを作ってみてはいかがでしょうか。きっと、モビルスーツとはちがった味わいがありますよ。

（安井）

▼Zガンダムの延長が決定した。延長については賛否両論いろいろと思う。社内的にも意見が分かれている。何故延長なのか？内容はどうなるのか？その辺の事情は、12月10日売りの各アニメ誌、そして12月20日頃発行される予定の〝Bクラブ3〟でご覧頂きたい。

ところで、もう〝Bクラブ〟は読んでもらえたかな。編集スタッフのノリが良くて、企画がどんどんハイパー化している。湧き上がるアイデアを盛り込むために、100ページに増ページしたが、それでも入り切れない程。皆さんの感想が楽しみだ。模型情報は速報、Bクラブは深みのある情報、という編集方針でやっていきますので、よろしくお願いします。

（加藤）

模型情報 12月号

発行人……山科　誠
編集人……加藤　智
構　成……金田　益実／間宮　尚彦
安井　尚志／安蒜　利明
表紙イラスト……石橋　謙一
写真撮影……サンフォトサービス社
レイアウト……㈱藤森デザイン事務所

★模型情報は模型店・玩具店でお買い求め下さい。尚、当社直送をご希望される場合は、代金（半年間900円、一年間1800円）を現金書留か郵便為替で同封の上、住所・氏名・生年月日・電話番号・何月号から希望するかを明記の上、お申し込み下さい。

●〒424　静岡県清水市袖師町702
㈱バンダイ静岡工場　MJ編集部・定期購読係まで

模型情報 76
模型情報12月号 発行人・山科誠 昭和60年12月1日発行（毎月1回1日発行）第6巻第12号通巻76号 昭和59年10月26日第3種郵便物認可 編集人・加藤智 印刷・小野美術印刷 発行所・〒424静岡県清水市袖師町702㈱バンダイ静岡工場 電話0543（65）5362（代） 定価一〇〇円